03 世代を超えて繋がるバトン

– Interview –

大橋 チイ さん

田沢実入のひ孫にあたる。新潟市中央区在住

「とにかく『大河津分水』のことばかり考えていた人。実入おじいさんはそんな人だったと聞いています」

そう話す大橋チイさんは、田沢実入さんのひ孫にあたります。直接本人と会うことはなかったチイさんですが、母からよく聞いていたという人柄を話してくれました。

「困っている人のために動く人だったのでしょう。私財を投げ打ち、持っていた田んぼや屋敷もすべて売り払ってもなお、洪水などの被害に苦しむ人たちを救いたかったのだと思います」

没後50年の節目には、実入さん自作の和歌の入った掛け軸が親戚に配られ、その意思は今なお受け継がれています。

水害に苦しむ人たちを救うため、大河津分水路の建設に奔走した実入さん。大河津分水路の完成を見届けた後、亡くなりました。

「お墓参りには、山宮半四郎さんも度々いらしてました。母に聞くと、おじいさんが大変お世話になった人と教えてくれました。また、本人は断ったようですが、生前、これまでの活動を讃えて銅像を建てようという話も出ていたみたいです。たくさんの人たちを助け、そして慕われていたのだと思います」

大河津分水の通水から100年。改めて実入さんの活躍に想いを馳せる大橋さん。

「古い資料は多く残っていますが、実はあまり詳しくは分からないんです。通水100年の節目に、先祖が残してくれた歴史をもう少し調べて、次の世代にも伝えていきたいですね」

夫・孝さんとともに自宅に保管する資料に目を凝らすチイさん

04 守り継がれるサクラのバトン

– Interview –

吉田 幸策 さん

認定 NPO 法人 分水さくらを守る会・理事長

「私たちの活動は、『地域の自然環境を守る』『桜文化を守り分水工事の偉業を後世に伝える』『国上山周辺の景観等を守る』。この3つの達成を目的としています」

吉田さんが理事長を務める「分水さくらを守る会」は、田沢実入・山宮半四郎が設立した「信濃川大河津分水保勝会」の流れを汲む団体として平成9年に発足。桜を守り、次世代へ受け継ぐ活動を行っています。

「活動内容は、苗木の育成や桜の下枝の剪定など。特に剪定作業に関しては、毎回多くのボランティアの協力を得ながら桜並木の保全に取り組んできました」

治水のシンボルとして100年以上にわたり受け継がれてきた桜並木。しかし、その歴史は平坦なものではありませんでした。

「実は、100年前の通水後、戦争や度重なる工事によって大河津分水の桜並木は伐採や移植が繰り返されてきました。それでも、現在に至るまで美しい桜並木が残るのは、その時々の先人たちが努力し、守り継いできたからに他なりません」

豪雨を幾度も流してきた大河津分水、その恩恵を受け今の私たちの暮らしがあると話す吉田さん。桜並木は先人たちの想いを背負い、未来に繋ぐバトンの役割を果たします。

「最近は、なぜ大河津分水に桜並木があるのか知らない人も多いと思います。ぜひ、この『大河津分水の桜並木』に愛着を持ち、誇りに思ってください。この場所がこれまで以上に桜の溢れる名所となるよう願っています」

分水さくらを守る会の活動風景。不要枝の剪定作業をしている様子です

さくらフォトヒストリー

昭和10年頃から現在までの「大河津分水の桜並木」の様子や人々の賑わいを写真で紹介します。

1

2

3

4

5

6

7

1 昭和 10 年頃のおいらん道中
2 昭和 20 年頃の桜と可動堰
3 昭和 30 年頃の大河津分水の桜並木
4 昭和 40 年頃のおいらん道中
5 おいらん道中（現在）
6 大河津分水の桜並木（現在）
7 燕さくらマラソン（現在）